

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

一般財団法人日本水産油脂協会内

TEL & FAX: 03-3469-6931

URL: <http://www.dhaepa.org/>E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

日油株式会社 大久保 剛

寒い冬もようやく過ぎ去り、暖かい日が続くなか梅や桜が一気に咲き出しました。そんな心地よい陽気の中、明治大学生田キャンパスで開催された日本農芸化学会に参加してきました。お目当てのプログラムは幾つかあったのですが……一番のお目当ては、文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究(領域提案型)」平成24年度～28年度に採択された『マイクロエンドフェノタイプによる精神病態学』の領域代表である喜田聡教授(東京農大)が世話人を務めた「農芸化学における精神疾患のマイクロエンドフェノタイプ」というシンポジウムでした。

「マイクロエンドフェノタイプ」……正直、研究者でも聞き慣れない言葉です。

平成8年の218万人から、平成20年の323万人へ約1.5倍に急増し(日本精神科病院協会)、統合失調症、うつ病、高齢者の認知症、発達障害などが日本国民にとって特別な疾患ではなくなってきており、その対策は国家的急務になっています。これら精神疾患を導く回路・細胞・分子動態レベルの病態を「マイクロエンドフェノタイプ」とプロジェクトでは定義しています。この領域は日本では弱い研究分野でした。その理由としては、大学の基礎研究者と臨床現場の医師が互いに独立して研究を進めていたため情報の共有がなされていない点が挙げられます。そこで、このプロジェクトでは、ヒトを対象とする研究、モデル動物を用いた研究と、精神病態の分子基盤を解明する研究との三者間を結び付けて研究を進めて行こうと言うものです。

喜田教授のご担当分野は、脳外環境要因が脳内に引き起こすマイクロエンドフェノタイプであり、この脳外環境要因の一つに「栄養」を挙げています。農芸化学会は非常に大きな学会ですが、栄養の観点から精神疾患を対象にしている研究者は非常に少ないと指摘されていました。今回のシンポジウムでは食事摂取による栄養が精神疾患(統合失調症、心的外傷後ストレス障害)の一次予防になると言うことで……ようやく登場しますが「多価不飽和脂肪酸」が有効ではないかという演題が続きました。また、演者の中には、多価不飽和脂肪酸摂取によるエピジェネティクスへの関与の可能性も示唆されていました。

エピジェネティクスとは、遺伝子と環境要因(今回は栄養)の架け橋となる機構で、遺伝子は不変ではなく、環境因子によって後天的に変化するというものです。もし、DHAやEPAがエピジェネティクスに関与していたら……正にマイクロエンドフェノタイプ研究の一端を担うことになるでしょう。と、言うよりはDHAやEPAにはその可能性があると考えられています。

最近では、質量分析機器の発達で ω 3系脂肪酸の代謝産物が同定出来るようになり、レゾルビンやプロテクチンなどの抗炎症作用、潰瘍性大腸炎や喘息などへの創薬研究への発展とDHA・EPA研究は目を見張るばかりの発展を現在も遂げています。 ω 6系脂肪酸の拮抗作用と片付けられていた時代は終わり、非常にHOTで最先端の研究テーマになっています。もう20世紀の科学ではありません……エキサイティングな日々が続きます。

《第17回通常総会のご案内》

第17回通常総会を以下のとおり開催いたします。会員各位へは、近日中にご案内を発送いたします。

日時: 平成26年5月21日(水)14:00～19:00

場所: 南青山会館 〒107-0062 東京都港区南青山5-7-10 TEL: 03-3406-1365

総会・講演会 本館2階 3・4号会議室 14:00～17:00

懇親会 本館1階 2号会議室 17:00～19:00

講演会: ○機能性表示制度とDHA・EPAの機会(仮)

(株)グローバルニュートリショングループ 代表取締役 武田猛先生

○当面の内外経済情勢を読む

(株)双日総合研究所 副所長 吉崎達彦先生

《幹事会のうごき》平成26年3月14日(金)15:00～17:00、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成25年度第11回幹事会が開催された。

- ・DHA、EPAの普及活動に関し、第1回ニューズレターが配信されることになった。ニューズレターの原稿については分科会で検討し、その内容が幹事会で報告された。
- ・本年度事業報告及び予算案が事務局より提示された。